



平成30年度第 69回岩手県立軽米高等学校 卒業式挙行 47名の卒業生に幸多かれ



平成31年3月1日(金)、第69回卒業式が、山本賢一軽米町長をはじめ多数のご来賓、保護者の皆様をお迎えして、挙行されました。

高橋正勝校長は式辞の中で次のように卒業生に話されました。

「皆さんは、本校の校是である『風雪に耐え大いなる未来を拓かん』を体現すべく、学業と礼節を尊び、文武両道に励んできました。仲間と日々切磋琢磨し、青春を謳歌し、人生を豊かにする沢山の術を身につけながら、本日、高校三年間の教育課程を全て修了されました。これは、皆さん一人ひとりの精進努力の賜ではありますが、折に触れ、周りからの

温かい愛情と励ましに支えられたこともあったはずですが、特に、ご家族や地域の方々、PTAや同窓会の方々への感謝の気持ちは、決して忘れることなく、胸に刻んでください。

これから社会へと巣立つ皆さんに、天台宗の開祖 最澄の言葉を紹介します。

「径寸十枚 是れ国宝に非ず、一隅を照らす 此れ則ち 国宝なり」

解釈は、「直径三センチの宝石十個、それが宝ではない。社会の一隅にしながら、社会を照らす生活をする、その人こそが国宝の人である。」となります。

「今あなたがいる家庭、学校、そして職場での毎日の生活の中で、学習や仕事など自分のすべきことにしっかり取り組むことができる人、隣にいる仲間や家族に思いやりを持って接することのできる人は国の宝物、社会を明るく照らす宝物になれる」ということだと思えます。「人々を幸せに導くために“国宝の人材”を養成したい」という、最澄の熱い想いを表した言葉とされています。

長い歴史と伝統をささぐ本校は、有為な人材を数多輩出して参りました。皆さんも、一隅を照らす人にならなければなりません。社会の宝物にならなければなりません。ぜひ、そういう心豊かな人、社会になくてはならない人になってください。

これからのステージで輝くための心構えを話しておきます。

まず大切なのは、自分には、社会で果たすべき役割や使命が必ずあるということに自覚することです。

つぎに、その役割や使命をどのようにして知り得るのかを考えるのです。その一つは、夢、希望、理想を持つこと、志を立てることです。そして、それを叶えるために色々な挑戦をする中から自分の役割や使命を知り得るのです。もう一つは、仕事や学業にひたすら打ち込むことです。今与えられた事に一心を傾けることで、自ずと役割や使命が見えてきます。未来をイメージするか、現在を極めるかの違いはありますが、いずれも努力を積み重ねることが、自分が宝物として輝くための重要なポイントになります。

たくさんの可能性に溢れた卒業生の門出にあたり、つぎの言葉をはなむけに贈ります。

「世界には、きみ以外には誰も歩むことのできない唯一の道がある。

その道はどこに行き着くのか、と問うてはならない。ひたすら進め。」

哲学者ニーチェの言葉です。前へ進む小さな勇気を持つことによって、その先に大きな世界が広がっていることを知ってください。前へ進みながら、自分の役割や使命を果たし、一隅を照らす人材となって輝いてくれることを願います。」

ご来賓の方々を代表しての教育振興会会長山本賢一様から、スキージャンプの小林陵侑選手を紹介しながら「固い意志と努力を重ねていってください。軽米町の四季折々の風景や人々の温かさを忘れなれください」とのメッセージを頂きました。

次に、PTA会長新井田一徳様は、スティーブ=ジョブズ氏のスタンフォード大学の卒業式でのスピーチから、1 点と点はつながると信じて選択せよ 2 愛と敗北こそが人生を豊かにする 3 死を感じて今日を生きよう という言葉を引用し、「たくさんのつながった点は線になり、やがて太い線になる。軽米高校での学びに自信と誇りを持って、大輪の花を咲かせてください。」とエールを贈りました。

次いで、同窓会会長松浦満雄様から、「皆さんは、今日から同窓会会員です。故郷に自信を持って活躍してください。世の中は、信頼と信用がなければ一日も送ることができません。人に信頼される人間になってください。同窓会は皆さんの応援団です。」と激励の言葉を頂戴しました。

本年度も県立高等学校に対し岩手県教育委員会高橋嘉行教育長よりメッセージがありました。

「東日本大震災津波や台風10号による被災など、さまざまな困難なこともあったかと思いますが、仲間と協力してそれを乗り越え、岩手の若者としての思いやりやたくましさや身に付けて大きく成長した皆さんを誇りに思います。これまでの様々な経験を糧に、学校生活で身に付けた力を更に高めながら、ふるさと振興や日本の未来に貢献するかけがえない存在として、新たな社会を牽引していってくれると信じています。新たな元号を迎える年をスタートに新しい人生のステージで一層光り輝いてくれることを祈念します。」

在校生を代表して、生徒会長五郎九千尋さんが「入学してすぐに始まる応援歌練習では、気迫や力強い声に圧倒されるとともに、先輩方の伝統に対する熱い眼差しを見て、今後の学校生活に対する期待が膨らみました。クラスマッチでは、やはり最高学年ということもあり、クラスの団結力や競技への強い思いがあり、白熱した戦いを繰り広げてくださいました。軽米高校の行事と言えば、軽高祭でしょう。模擬店の豊富なメニューと色とりどりに装飾された教室は、生徒だけではなく、来場者の心までも鮮やかにしました。また、後夜祭でも大いに盛り上げ、笑いと笑顔が溢れた1日となりました。生徒会活動では、生徒総会で多くの意見を出し、積極的に行動する姿は、私たちの模範となりました。この先、新たな道へと進まれるわけですが、さまざまな試練や壁が立ちただかることと思えます。しかし、この軽米高校で三年間学んできたことは、今後の励みになることでしょう。皆さんが築いてくださった伝統を今度は私たちが受け継いでいくことをお誓い申し上げますとともに、みなさんのご健康とご活躍をお祈りいたします。」と送辞を述べました。



これに対し、卒業生を代表して大鳥直樹君が次のように答辞を述べました。

「思い起こせば、三年前、私達は大きな不安と期待の中で入学してきました。まだ学校生活に慣れぬままに始まった応援歌練習と学習合宿。授業の中で恋と愛の違いについてみんなで語ったのは今でも良い思い出です。高校での学びは義務教育ではない、自分の責任で学ぶのだということを実感した一年生でした。

二年生、私たちの学年のテーマは「考えて伝えよう」でした。進路について考え、そして、それを伝えることで自分と向き合うことができました。一組は北上の企業を見学し、全国にあるいは世界に誇れる企業の存在とそこに活躍する人たちの姿を直近に見てお話を伺いました。二組は、宮古・大槌での震災復興学習に行き、震災の悲惨さを改めて思い知らされました。しかし、あきらめずに前を向いて歩み続けることや、それを後世へと伝えることの重要性を学びました。一年を通して、伝えるとはどういうことを学んだ二年生でした。

そして三年生。私達は人生の岐路に立ち、生きてきた中で最大の決断を各々がしてきました。私達がこれから歩む社会は、未来予測ができない、常識が無常となる社会です。社会の変化に対応しながらも確固たる自分を持たなければいけません。いつか、人生で何かに迷い自分が見えなくなる時が来ることもあるでしょう。しかし、その時は軽米高校で過ごしたこの日々を心の拠り所、灯台として進むべき道を切り開いていきます。

私達がこれまで、この軽米高校でたくさんの思い出を作り、成長出来たのは、先生方の厚いご指導と保護者の皆様のおかけです。これまで本当にありがとうございました。そして、在校生の皆さん。軽米高校は、80周年への道を歩み始めたばかりです。これからの時代に合わせて変化し、しかし変わらない強さを持ってその歩みを少しずつ進めていってください。

最後になりますが、今まで私達を支えてくださったすべての人への感謝と、岩手県立軽米高等学校の益々のご発展を心からお祈りいたします。」



ご来賓の皆様、保護者の皆様、本日はご出席頂き誠にありがとうございました。

47名の卒業生の皆さん、軽米高校は卒業しても、一生が勉強です。自分を大切に、頑張ってください。卒業おめでとう。

